



TIFA会報

Tachikawa International Friendship Association

2015年1月24日

Vol.113

立川国際友好協会

発行責任者 齋藤 實

編集責任者 小林 保

“言葉の力を信じて共に歩む”

立川国際友好協会

会長 齋藤 實

新しい年を迎えるに当たり一言ご挨拶を申し上げます。
昨年度は初めて姉妹都市からの交換留学生を日本語教室に
受入れ、姉妹都市委員会との協働が実践されました。



9月からは新しく建設
された柴崎学習館での日本
語学習活動が始まりました
が、40名以上で学習可能な
普通教室が設置されていな
いため、三階作業室や二階調
理室・和室での分散学習形態
を採用せざるを得なくなり、

大変ご不便をおかけする結果となりました。しかし、ボラ
ンティアと受講生の皆さんが、不便な学習環境を乗り越えて
熱心に学習活動を継続されました。その結果、日本語検
定試験1級に合格する実績を挙げた受講生も現れ、嬉しい
限りです。

9月の定例会議では「多文化共生都市宣言に関する陳
情書」を提案したところ全会一致で採択可決されました。
民間ボランティア団体としての地道な活動が市議会でも評
価され、市民力を結合して立川市の明るい未来を切り開く
ボランティア団体としても認知されたものと自負しており
ます。

私たちの様な共に言葉を学習するボランティア活動は、
言葉の持つ力を信じ合う事が大切です。「きれいな言葉は、
綺麗な心、優しい言葉は、優しい心、一つの言葉はそれぞ
れに、一つの心を持っている」この事を信じ合う所に多文
化共生の文化が育ち、花を咲かせ、実を結ぶものと、今年
も一歩前進を試みて参りましょう。

「私の前を歩くな、私が従うとは限らない。私の後を歩
くな、私が導くとは限らない。私と共に歩け、私たちは一
つなのだから」。アメリカインディアン・ソーク族の間で長
く語り継がれて来た格言です。多文化共生の在り方を問題
意識として、今年の課題にして参りましょう。

H27年度

TIFA会長、副会長選挙

事務局 柏田泰利

会 長：齋藤 實氏

副会長：赤嶺令子氏、波多野進氏 続投

11月13日から12月20日の間、立候補受け、投
票、開票を行いました。今回も立候補者はなく、推薦者の
記名投票となりました。得票者名と得票数は次の通りです。

(敬称略)

役職	得票数	氏名(あいうえお順)
会長	47	齋藤 實
	2	小林 保、橋本溪一
	1	柏田泰利、小木曾夏樹、 波多野進、原島貢
副会長	42	赤嶺令子
	36	波多野進
	2	柏田泰利、吉澤孝一
	1	安楽国広、牛島芳 大内マサ子、小木曾夏樹 小林保、佐藤公男 佐藤達夫、中西久代 森和子

得票数上位の齋藤会長、赤嶺、波多野 両副会長に続投
をお願いし承諾して戴きました。1月24日開催の運営委
員会で決定する予定です。三名の方には大変ご多忙の中で
長年引き受けて戴くことになる事を私たち会員全員が心
に留めておきましょう。尚、例年になく得票総数が多かつ
たのは、投票率が100%近い松中教室の選挙参加(20
名投票)によります。これは大変良かったです。一方、柴
崎教室の投票者が39名(白紙4名含む)で、投票率は6
0%でした。前回の74%台より更に低下しました。な
かなか日本語教室に出席できない方でも投票の機会を持
てるように長い選挙期間を設けましたが、大変残念ながら
低投票率でした。改めて、TIFA運営への積極的な参加
をお願いします。

平成26年の最後を飾る イヤーエンドパーティー

企画渉外部 近藤 誠

昨年12月20日のイヤーエンドパーティー。150人が集まったドアーの向こうの舞台には所狭しと艶やかな風船アート、そして前面には30鉢の花、所々に赤い服のサンタさん、と子供達にとってはもう完全に幻想の世界。

開幕の挨拶は齋藤会長の手品披露、会場後方には女性講



師陣の手作りの料理がずら〜り。お給仕役もエプロン姿のボランティアの先生たち。食器を手にした受講生は、いつもの

先生から手料理を山盛りについでもらっていた。授業中には見られない笑顔。舞台では元受講生の荒井さんが日本と中国の歌をそれぞれの国の言葉で。ピアノ伴奏は今年も出ずっぱりの現役受講生佐藤冬さん。終わって子供達が5〜6人登壇。一人ひとり名前を呼ばれて元気よく、「はい」、「はい」と会場のお母さんに向けてデビューのご挨拶。子供元気なら親はうれしいもの。踊りは今様の妖怪ダンス。名前と違ってむしろおもしろかわいい手足をぶらぶらの



動き。

お次は初登場、フラダンス。元講師の小川美子さん他7人でハワイの波を想わせるしなやか

な腕、美脚、お腰の波打つ動きは・・・。アンコールの声と司会の誘いで子供も大人も舞台上一緒に“フラフラ”ダンス。

そして更に6人のフィリピン人受講生のダンス。腕も脚もお腰も首さえそれこそ千切れんばかりに激しく撓り、若き妖艶な微笑みは俗に言う悩殺・・・。終わる前からもうアンコール！の声。「一緒に」の掛け声で子供も大人も舞台の上で今度は殆ど“盆踊り風”ダンス。フラガール、いやし



ディも会場後ろで一緒にハワイ風ダンスをご披露。めはやはり東京音頭。司会のマイクが登壇を呼びかけ

ると、二人、三人と小集団が続々と登場。色んな国の人達が曲に合わせて輪になって踊れば少々の形くづれも何のその、気分はクリスマスと夏祭り。その他出演も数々あれど、紙面切れにて割愛。新施設での初興行、少々狭けりゃ却って楽しい我が家。マイクも敏感、舞台も程よい高さ。まずは目出度し、目出度しでTIFAの一年がこれにて打ち止め〜！

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

☆☆ イタリアでの異文化見聞録 ☆☆

土曜教室 原野隆典

ローマ在住の娘がテルミニ駅の近くでホステルを始めたので、当地を訪問して来ました。そこでの見聞が皆様の異文化認識に少しでも役に立てばと考え、一部をご紹介します。



駅の近所に「サンタマリアマジョーレ」という著名な聖堂があり、その鐘楼

からは終日15分間隔で鐘が鳴らされますが、滞在の当初から気になったのはそれが12時05分、13時05分というように、節目の時刻から5分程ずれて聞こえて来ることでした。

ある日、娘達と聖堂の前にある屋上のレストランで夕食をしましたが、そこからは鐘楼の大時計が真正面に見えたために私は時計が5分遅れていることに気付き、鐘の鳴る時刻が毎日ずれる原因もそれであることを納得しました。イタリア人のウェーターに話すと、笑いながら「これがイタリアです。」と答えました。これが日本なら、著名な寺

院の鐘が5分遅れて鳴らし続けられることは先ずないでしょう。復路で、ローマを度々訪れている女性が隣に座られたのでこの話をしますと、イタリアらしい話だと笑っていましたが、直ぐに真顔に戻り、次の逸話を聞かせてくれました。

9年前に福知山線で発生した列車の重大事故は、事故が起こる前の駅で発車時刻が1分半程遅れたために、その遅れを取り戻そうとした運転手がカーブ地点でスピードを出し過ぎたことが重大事故の最大の原因になったと言われている。このニュースを聞いたイタリア人の反応は大変なもので、運転手は何故この程度の遅れを取り戻そうと一所懸命になるのか、会社も何故そこ迄の時刻の厳守を社員に強要するのか、彼らにはその基本的な考え方が全く理解出来ない、という声が圧倒的だったそうです。イタリアの社会では諸事の時刻が数分位遅れることなどは、殆ど問題にならないようです。それならば、聖堂の鐘が数分位ずれるということなどは問題外ということでしょう。

公共の交通機関が所定の時刻を守り安定的に運行されるのは大切なことですが、そのことに拘り過ぎて安全等の重要な要件が抜け落ちる如き事態は、絶対にあってはならないことです。日本人は真面目で規律や約束を尊重し良く守るという評価を海外でよく聞きますが、その生真面目な氣質が時に柔軟性やバランスを欠く思考や行動を惹起していないか、私共は常に謙虚な自省が必要だと強く感じました。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

☆☆ ルーマニアで 日本語教室を訪ねて ☆☆

土曜教室 吉澤孝一

昨年（2014年）7月、ツアーでルーマニアの古都・



出迎えてくれた上級生

ブラショフを訪ねました。その際、当市が武蔵野市と姉妹市の関係で、市内に「日本武蔵野センター」という、日本語教室を開いている施設があることを知りました。

早速ガイドさんに連絡を取っても

らい自由時間を使って数人で行ってみることに。センターは市中心の住宅街の中にあり、その日は夏休み期間中とのことで、10歳以上の初めて日本語を学ぶ子対象の特別教室が開かれていました。まだ5日目ということでしたが20名ほどの生徒がそれぞれ、「こんにちは。わたしは〇〇です。」とはっきりした日本語で自己紹介してくれました。

現在教室を担当しているのは西東京市出身のKさん。自己紹介が終わると一緒に折り紙作り。私たちも子どもたちの机に分かれ、やっこさん作りに挑戦しました。子どもたちとのやり取りは片言の英語ともっぱらのボディーランゲージ。それでもKさんのユーモアあふれる指導で和気あいあいとした雰囲気が進みました。途中、子どもたちの母親がクッキーを焼いてきてくださり急きょティータイムに。心温まるおもてなしに一同大感激でした。

センターで特別に招集してくれたようで夏休み中の上級生3名も参加してくれました。そのうちの一人の男子高校生は、4年前に日本を訪れ日本語に興味をもったとのこと。ただルーマニアでは仕事で日本語を生かす機会は少なく、日本語学習はあくまで趣味の範囲とのことでした。

センターが開設されたのは1998年で、現在は日本語教室のほかに、書道・マンガ・絵手紙・着物着付け、そして茶の湯といった教室を開いているそうです。書道教室は人気が高いそうで、この日も、廊下には生徒の見事な書が飾られていました。「一期一会」「天の川」「希望」などなど、どれも見事な筆さばきで、思わず参加者から「私より数段上手ね！」との声が出るほどでした。

あっという間に時間が過ぎ、名残惜しかったのですが、最後に全員で記念撮影、センターをあとにしました。



日本武蔵野センター
ルーマニア日本語教室

木曜教室ランチパーティー

12月18日(木)、2学期最後の授業終了後に柴崎学習館の調理室にて木曜教室のランチパーティーが行われました。日本人ボランティア、外国人受講生共に大勢の参加者が集い、おいしい料理を食べながら楽しい時間を過ごしました。

今回も煮物や炊き込みご飯などの日本食からスイーツまで、テーブルには色とりどりの料理が並びました。

2学期から柴崎学習館は場所が変わり、木曜教室では初級クラスと中・上級クラスの教室が違う階で行われるようになったため、普段の授業だけではなかなか交流を深めることが難しい状況でしたが、パーティーではクラスに関わらず、写真を撮ったり、連絡先を交換する受講生の姿が多くみられ、交流を深める良い機会になったのではないかと思います。



木曜教室ランチパーティー
TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

松中教室近況

松中教室 佐藤公男

平成24年11、12月の松中教室の出席受講生数が平均8名で、大変静かな教室でしたが、昨年2月から受講生が増加し、9、10月の出席受講生は平均19名、更に11、12月には同平均28名になりました。

松中教室の周辺には、量販店向けに食料品を加工する小さな職場が多く、外国人が多く働いていますので、益々受講生は増えるでしょう。

日本語が全くできない大人の受講生が増えている一方、親が外国から引き取る子供が増えているのも一つの傾向です。現在8名おり、2学期は規定日以外の補講を25回も行いました。一日に新受講生が14名も来た日があり、そのうちの若いベトナム人7名が、毎回目をキラキラ輝かせて学

んでいます。やはり、受講生が熱心だと教えがいがありますね。ボランティア講師は現在24名になりましたが、講師受講生の組み合わせが、きめ細かくとはいかないのが悩みの種です。

TIFATIFATIFATIFATIFATIFA

土曜教室ボランティア研修会

土曜教室 橋本 溪一

土曜教室では春と秋の年2回、研修会を開いています。11月29日土曜日、外部講師を招き秋の研修を開催しました。講師は日本企業で働く外国人に日本語を教えているNPO法人 日本語教育研究所の倉持素子先生でした。日頃、ボランティアは受講生に教えることで精一杯なのに、授業で感じている疑問点や悩みも多く出され、熱心に話し合いが行われました。又、文法で「日本語は語順に関わらず、助詞を変えることで意味が変わるため、助詞をよく勉強するほうがいい」を話されたことは大変、参考になりました。今回の参加者は11名で、少なかったが、今後もこのような研修を続けていく必要を感じました。



ボランティア研修会

☆☆TIFA 会員動向☆☆

(敬称略)

【入会者】

木曜、土曜：なし

松中：石井実、佐々木博、小谷貴美恵、岸部洋子

【退会者】

木曜、土曜、松中：なし

【休会者】

木曜、土曜、松中：なし

【復帰者】

土曜：増田正道